|  |
| --- |
| 会議の結果 |
| 件　　　名 | 令和４年度田辺市社会教育委員会議　第６回定例会 |
| 日　　　時 | 令和５年３月29日（水曜日）　10時15分～12時 |
| 場　　　所 | 田辺市民総合センター　２階交流ホール |
|  | ○社会教育委員出席者11名：　松場議長、尾崎副議長、稲垣委員、加藤委員、九鬼委員、小山委員、近藤委員、坂本委員、中根委員、西川委員、柳川委員欠席者２名：　佐久間委員、砂野委員○事務局７名：　佐武教育長、前川教育次長、狼谷生涯学習課長、那須生涯学習推進係長尾﨑公民館係長、小林公民館係主査、小出生涯学習推進係主査 |

１．開会　教育長挨拶

２．議長挨拶

３．説明事項・報告事項

（１）第17回市民スポレク祭実施結果について

（２）第46回市民体育祭実施結果について

（３）第22回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会について

（４）令和４年度田辺市スポーツ賞表彰者名簿について

（５）令和５・６年度田辺市スポーツ推進委員名簿について

（６）南方熊楠顕彰館事業について

（７）第２次田辺市生涯学習推進計画後期基本計画の策定について

以上の項目について、事務局より一括して説明及び報告を行った。

質疑応答はなかった。

４．協議

（１）人材育成事業企画部会について、事務局より報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

Ａ委員：先日は高校卒業後のことについて勉強会をしましたが、イメージしていた内容と違った部分があって、とても勉強になりました。当初は、私も何も知らない中で社会教育委員になりましたが、社会教育委員として様々なことを見聞きする中で、いろんなことに目を向けられるようになりました。ですので、社会教育委員の中での勉強会も考えていただければと思います。

（２）２年間のまとめについて、各委員から発言いただいた。

【質疑応答・主な意見】

Ｂ委員：２年間お世話になりました。ありがとうございます。送ってきていただいたものを読みながら、また自分が勉強になっているなというのをすごく感じました。２ページの一番上になりますが本当に２年間、コロナの中で私が一番心に残ったのは、高校への出張講座で、地元愛を一生懸命に話してくれる魅力ある大人の話をキラキラしながら高校生が聞いている様子でした。以前にも参加させてもらったことがありますが、前よりも今回の高校生の方がこなれていたというか、自分たちの目指すものがそれなりに見えている感じがしました。私が参加したグループには、しゃべるのが苦手な生徒さんもいましたが、メンバーの中で上手く話を進めていて、そうした経験を準備できた社会教育の場というのは素晴らしいと思いました。私も小学校の現場にいましたが、なかなか世の中の魅力ある大人と出会う場というのはそんなになかったように思います。思春期の、これから出ていく生徒さんがそうした大人から話を聞ける機会を作るというのは、素晴らしいと思いました。中学校への出張講座は、仕事の関係で行くことができませんでしたが、先ほど尾崎副議長もおっしゃっていたように、中学生は自分たちが思っている以上に、私たちがグッとくるものを持っているので、高校生だけではなくて、より若い若者にアプローチしていくことも大事だと思っています。５ページを見ていただいて、真ん中に書いているのが私ですが、先ほどの教育長さんのお話も、私はすごく頷きながら、納得しながらお伺いしたんですが、本当にこの会議の中で委員の皆さんがいろんなテーマ一つ一つにそれぞれの視点を持って発言なさっていて、それは自分のプラスにもなりましたし、田辺市全体の動いていくエネルギーになっているとも思いました。中学生や高校生もそうですが、市民性をつくっていく、そういうところの起爆剤になる皆さんがおられるんだなと自分としては思いました。また、そうした皆さんを事務局の方々がつなげていってくださって、最後も上手にまとめていただいて非常に助かりました。ありがたいと思っています。これは、ぜひ書いておこうと思って書いたんですが、中辺路の近野分館は公民館39館の中で、唯一建物がありません。先ほど人材育成事業の議事メモの中に、「公民館があって、人が集まれるチャンスがあるというところはまず残していかなければならない。」というお話がなされたと書いてあるのを見ました。近野地域ではサークル活動の場がなかったんですが、近野小・中の校長先生たちのご協力を得て、サークルの活動が始まっています。学校の児童・生徒が減り、そこに住まわれている地域人口が減るという状況はこれから先も続いていくわけで、今までの経験の上で、いろんな判断をするのではなくて、これからはもっと柔軟で積極的に、施設にしても何にしても、アクティブなバックアップが必要になってくると思います。私たちもそのように取り組みながら、そういう声を出せるということで、この場は私にとって大事な場だったと思います。

Ｃ委員：まとめのときに考えましたのは、今までもそうでしたが、いろんな機会を得て、自分が学んだことを身近なところでどのように実践できるか、いつも考えながら、いろんな会議に参加しました。社会教育委員になったときに、漠然と自分にできることは何かと考えたんですが、一番心に残ったのが、人材の育成ということもそうですが、小規模多機能自治を学んだときに、絶対に地域に必要になることで、私個人に何ができるかと考えました。何かないかと２年ほど考える中で、自分の周りの人間を巻き込んで何かできることだと考えました。それには、私たちもそうですし、行政職員もそうです。行政職員は縦につながっていますが、横につながっていない部分があり、事業一つするにしても、それは産業建設課だ、住民福祉課だ、公民館はそんなことしないといけないのか、というような話が出ます。ただ、このことは小規模多機能自治の根本になるところで、とても大事なところなので、学校も公民館も行政も一緒になって何かできることを一度やろうと考え、３年かけて、やっと今年、映画上映会をやりました。各部署の担当職員に知恵を出してもらい、各方面から予算を集めました。実施して分かったのは、参加する団体が多いと、集まる人も自然と多くなるということで、このことは絶対に必要なことなので、継続していかなければならないと思いました。地域には、女性会や日赤奉仕団、商工会など様々な団体がありますが、そうした民間のつながりと行政の担当者とのつながりを一つにして、映画の上映会を実施しました。おそらく、参加している人はこれが小規模多機能自治の基本的な住民と行政とのつながり、横のつながりだとは誰も意識していなかったと思いますが、私一人習ったことを少し実践できたかなと思いました。普段やっている福祉映画の上映会では、参加する方は限られているんですが、この上映会に参加してくれた方々は、大変幅広い年齢層で90数名の方が集まってくださいました。社会教育委員会議で勉強したことが実践できたかなと最後になって大変感謝しています。次につなげることとして、先日も勉強会がありましたが、社会教育委員は人材を育成する前に自分たちも育たなければならないと考えています。今後も、何を目指すのかとかそういう大きなことではなくて、いろんなことを知る意味で、社会教育委員も年に一度は勉強会をして幅を広げていってほしいと思います。ありがとうございました。

Ｄ委員：２年前、久保前議長が退任されて、龍神地域から推薦となって、これはどうしたものかと重圧を感じていたんですが、会議やいろんな取組に参加させてもらう中で、ものすごく熱心な委員さんばかりなので、自分自身がいろいろ教えてもらいながら、学びながら、自分自身を整理してこれたのかなと思っています。都度、いろんなことを思い巡らせたり、考えさせられたりだったなと改めて思っています。私が社会教育委員になったきっかけはなんだったかと振り返ると、遡ること何年前でしょうか、私が若い頃に青年クラブの活動をしていたことから、以前、生涯学習課長もされていた龍神出身の小川さんにお声がけいただいたことがきっかけでした。先日の人材育成事業企画部会でも青年クラブや青年団の話題になりましたが、龍神も青年クラブがまだ残っていて、と言っても会計が残っていて解散しきれていないという状態だったんですが、これをどうするか考えるため、この１月に中心的なメンバーに声を掛けたら、集まることができました。コロナでここ数年はできていなかったんですが、青年クラブではクラブ独自のイベントや地域行事の手伝いをしていて、今後、声がかかったら行こうと思っているというメンバーの声もあって、青年という言葉だけ取れば、年齢の枠なく、地域のために活動を残せるんじゃないかという話になり、少し名前を変えて残すことになりました。細い糸のように青年の活動がずっと残って今につながったと思うと、私ができることは志のある人をちゃんと守っていってあげたい、地域の行事に協力する気持ちのある人たちを大事にしてあげたいなと今考えています。いつも葛藤の日々ですが、勉強を重ねていくことに、これからもなるのかと思いますが、これからもよろしくお願いします。２年間ありがとうございました。

Ｅ委員：委員を長くやっていますが、辞めたいと言いながらも続けざるを得ない状態のため、続けています。いつも言っていますが、本宮から田辺まで来るのが遠く、交通費も出ない状態なので、なかなか他の人に譲ることができません。移動に時間もかかるし、本宮の人は新宮に行くことの方が慣れていて、田辺に来るのは遠いという感覚が完全にあると思います。私は新宮が嫌いで、田辺に出て来るのが好きだから来ていますが、他の方はそうではないのでなかなか引き継ぐことが難しいと感じています。また、本宮には観光があるのに田辺の駅の周りばかり改善されていって、なぜ本宮にはお金をいれてもらえないのかと常々感じています。湯の峰温泉をきれいにしていただいたんですが、そのやり方がもっと住民のことを考えて、意見を聞くことはなかったのかなということが多々あって、きれいになっただけだと感じています。今も苦情があるがそれも聞いてもらえないし、地域の人は誰に言ったらいいのかと私に言いますが、私に言われてもわからないので困っています。そういうことも多々あるので、聞くばかりではなく言わなきゃならないと思うんですが、社会教育委員としてやっている話と本宮町を代表して言う話はレベルが違うので、どこで言えばいいんだろうかと思っています。社会教育委員としていろんなことを進めていくことの話からずれているかもしれませんが、とりあえず文句を言いたいことだけは言いますので、よろしくお願いします。

Ｆ委員：一般公募委員という枠で２期させていただき、３期目もさせていただくことになっていて、一般枠にここまで居座っていいのかと思いつつ、私自身学びも多く、特に今期で言いますと、地域シンポジウム、神島塾、出張講座といい現場を見せてもらっているので、自分の成長のためには居たいですが、できればここでのやりとり一つ一つを広める術がないものかとそればかり考えています。２年間を振り返って、まとめにも書かせていただいたんですが、地域シンポジウムは、行ったところが街なかだったので、人も少なく、話に拍車はかからずしんどかったです。その一方で、神島塾は楽しかった。この温度差が現実なんだろうと思っていて、未来のことはいろいろやりようがあって、明るく、楽しく、可能性がありますが、現実はなかなか動かしにくい問題が詰まっていて、未来のことに引っ張っていってもらいながら、今をそっちに向けて動かしていく、このエネルギーというか、体力をつけないといけないのだなというのが実感として残りました。そういうことで広めていく、共有していくということが、今後必須になっていくので、その辺のことを私も鍛えていけたらと思っています。

Ａ委員：先ほども言いましたが、社会教育委員になるにあたって、無知でした。わからないままに受けましたし、いろんな事情もあって私でいいのかというのがありまして、３つのことを自分に課しました。一つ目に、「役割があって委員に選出された限りは、また、定例会においては、大切な税から報酬が支払われていることを心に留め、任に務めること」、いろいろと企画会議や夜もシンポジウムがありましたけれども、その当時報酬はなく、私もそれが当たり前だと思っていました。定例会のときだけの報酬でしたので、ここに書かせていただきました。二つ目に、自分はとにかくわからないから、「会議の事前資料には必ず目を通すこと」。そして三つ目に、「毎回発言すること」、これらを自分に言い聞かせました。また、マイマニフェストを１期２年で必ず書いていて、最初の2009年に就任して、2011年の分は初心忘れるべからずということで、残しておいてました。そこに、どういう社会教育委員会議にしていきたいのかということについて、「活発な議論ができる会議体。問題意識をもって主体的に関わっていく。諮問を受けて答申を出すことも大切だと思いますが、今取り組むべき課題を決め、グループごとに調査していくことがあってもよいように思います。これまでもそうですが、これからも事前資料の充実。事務局と委員が車の両輪の如く、連携し協働していく。提案するだけでなくＰＤＣＡを実践していく。」ということを書いています。４ページに書かせていただいた次期社会教育委員のあり方（引き継ぎたい想い）というのが、2011年に提言書をまとめて、教育長に出したものから抜粋したもので、公民館について記載した内容は、私の個人的なものです。14年間やってきて、毎期毎期私でいいのかという想いがあって、一時期、その当時の課長さんに私でいいのかということを確認させてもらっていました。私としては、個人的にはいろんな方とお会いすることができて、近畿大会に行かせてもらったり、西牟婁の教育委員の方の交流だったり、特に、当初年間６～７回講座企画をやっていたので、その都度、私が近いこともあって、後の懇親会にも参加させてもらって、本当にいろんな方のお話を聞くことができて、自分自身成長できたと思っています。ただ、重点アクションプランのほとんどはＰＤＣＡで実行できましたが、生涯学習宣言都市を実行することができなかったことがずっと心残りです。合併前はありましたが、合併後、宣言がなくなりました。それが心残りの一つです。今回、ＰＤＣＡということで、重点アクションプラン３つありますので、それはきっちり年度年度で、特に５年間終わった段階でどうだったのかチェックしていただきたいと思います。先ほど、Ｆさんから一般公募でいいのかなという話がありましたが、紀伊民報さんはいろんな情報をいただいておりまして、個人的に朝日新聞と紀伊民報を勉強のために購読しているんですが、勉強させてもらっています。３月15日の記事でも、高校生が一般質問を聞きにいったという記事があり、本紙が呼びかけたとあったので、とてもいい企画だと思いました。今、統一地方選もあって、３月24日の記事で、たかまつななさんや長野県飯綱町元議長の寺島渉さんの話がありました。たかまつさんは18歳の選挙権の導入を期に全国の学校で主権者教育をされているんですが、問題になっている自治、自治会の衰退もそうなんですが、そこに目をむけることで、自分の住む街を自分たちも変えられるんじゃないかという意識のきっかけにもなりますし、住民自治を考えるきっかけにもなると思っています。私も学生時代から政治と関わることを避けていましたが、31歳くらいから社会情勢という情報をもらいながら、環境も食も政治にすごく関係があるんだということに気付きまして、本当にそうしたことが大事だと思います。Ｆさんにはぜひ続けていただけたらと思います。14年間勉強させていただいてありがとうございました。もう一点、私が何を残したかというのではありませんが、私の発言で男女混合名簿ができた、一緒におられた山崎さんが率先してやってくれた、そのことを教育長から最後に聞けただけでもよかったと思っています。ありがとうございました。

Ｇ委員：２年間本当にありがとうございました。私は、校長会から山崎先生の後を引き継いでさせていただいたんですが、本当に社会教育委員になってよかったと思っています。教育長の話にもあったとおり、外からの目線、市民感覚というのを学ばせていただいて、そのことが、学校教育にも生かすことができたと思います。特に、皆さんのおかげで、高校生向けの出張講座を中学校まで広げていただいて、本校に山本さんを派遣していただいたことは本当にありがたかったと感謝しています。生徒にとっては、将来の夢や進路を考えるきっかけになったかと思います。そういった機会を持つことができたことが、嬉しく思っています。尾崎さんには梅ジャムの販売で弁慶市への出店のほか、授業もしていただき、松場議長にもご挨拶いただき、いい機会になったと思います。ありがとうございました。私自身、地域シンポジウムが思い出に残っていて、たくさん周るのは大変でしたが、住民の方々と交流できたことと、その場所でお世話になった方とも再開することができたことは、嬉しかったです。そのとき、Ⅰ先生にも話を聞けたのは私自身の学びにもなったと思います。地域の良さや想いに直に触れること、生の声を聴くことは、大変ですが大切なことだと思いました。また、会議に出席する中で、皆さんの真摯な姿に毎回感銘を受けています。そういったところにも触れさせていただいて、私自身、学校現場で頑張っていかなければなと、思いを新たにさせてもらっているところで、いつも活力というか、背筋が伸びるような、そんな思いにさせてくれた会だったと思っています。これまでの教員人生を振り返ると、いろんなところでいろんな方々に出会って、皆さんに成長させてもらったなと感じています。先ほど、Ｂさんから市民性という話があって、東陽中学校にいたときに市民性教育とキャリア教育を融合した夢実現学習というのを取り組んだことがあるんですが、それがふと蘇ってきて、また取り組んでみたいという自分の夢も広がったので、ありがたかったと思っています。また２年間どうぞよろしくお願いいたします。

Ｈ委員：先日の人材育成事業企画部会で、Ｃ委員が退任されることを知って、こないだからザワザワしていたんですが、本日、Ａ委員も退任されるということを知って、寂しい思いをしています。人生の大先輩で、いろいろ勉強されていますし、毎回この会議でのＣさん、Ａさんのお言葉は体に染み入るような言葉が多くて、いつも勉強させてもらいました。ありがとうございました。振り返ると、コロナで経済が動かなくなった中で、成人式の方で狼谷課長が商工振興課のブランド推進協議会とコラボして進めていただいたことは、とても嬉しかったです。教育と産業はなかなか結びつかないんですが、本当に大事なのはそういうところがつながることだと思っていて、教育と産業がつながることで、お互い気付きがあって、成長するということがいろんなところで出てきていたと思います。今後もいろんな形で教育と産業つながっていけばと思います。先日、商工会議所の異業種交流会があって、南紀白浜空港の民営化で頑張っておられる森重室長の話を聞かせていただき、施設の見学もさせていただきました。新しい白浜空港は、とてもきれいになっていて、木も多く、木のにおいがして、これからたくさんの人を呼んでくるだろうなというわくわく感のある空港になっていました。森重室長の話の中で、活性化のためには、若い方を誘致していくのが大事で、若い方が移住先を選ぶ条件の一つに教育があるということをおっしゃっていたのが、印象に残っています。教育というのはとても大事だと思うので、なるべく小さい時期から、社会を知るであったり、お金の回り方を知るであったり、自然のことに触れるなど、様々なことに触れていくことで、人材育成ができていくんじゃないかと思います。そのための手助けを社会教育委員として少しでもできればと思います。今回、中学校での出張講座は大変だったと思いますが、高校でずっとやってきたことを中学で展開できたことは、すごく大きかったと思いますし、18歳が成人ということになって、課題もたくさん出てきていますので、いろんな形でなにか仕掛けができればと思います。そのためにも、個人的にも勉強していかないといけないと改めて感じています。今後ともよろしくお願いします。

Ⅰ委員：２年間ありがとうございました。コロナの中で大変厳しい中でしたけれども、今年は地域シンポジウムを対面型で実施できて大変よかったと思っています。Ａさんが退任されるということで、私もＡさんと同期なんですが、７期14年になります。政治でも多選は良くないと思っていて、次で８期に入ってしまうんですが、８期というと古参中の古参になってしまうので、自分も若い人に早く譲らないといけないと思っています。田辺市の社会教育委員会議というのが、先ほどＡさんからご紹介いただきました堀内先生のお話をきっかけに、「行動する社会教育委員であれ」、「日本一の社会教育委員であれ」というスローガンで動いてきた経過があり、それらがどこまで具現化できたかはさておき、そういうことを大事にする、目指すということは、自分の中でのポリシーでもありました。その中で、社会教育がおかれている状況というのは周辺環境的には厳しく、公民館が減ったり、社会教育主事自体が減ったり、課がなくなったり、社会教育委員が必置でなくなり、置かなくてもいいということになりました。そういう中で社会教育が置かれている状況に対して、社会教育研究者の皆さんの議論を聞いていると、一つは新しい方向に行かないといけないという動きと、もう一つは原理原則原点みたいなところで２極化しています。原理原則原点は大事ではあるんですが、歴史というのは、保守と革新みたいなところがあって、守るためには変わらなければならない、「We must change to remain the same」という映画のフレーズがあるように、変わり続けなければ維持することができない、ということであれば、新しいところを目指していかなければならず、その新しいところは何なのか、常に議論しながら、確認しながらできるのが田辺市の社会教育委員会議のいいところでもあり、面白いところでもあり、自由闊達なところが本当に素敵なところだと思っています。その中で、小規模多機能自治に向けた検討をやってきたわけですが、目指すところは見えたけれども、現場はどうするかというところがあって、Ｃさんがおっしゃったように、映画一つの開催も総力戦でやるというのも一つの手法で、いろいろ動くことがあれば、そうでないところもあり、その目指すべき新しいところは常においておかないといけないのかなと思っています。先々週、国の第４期教育振興基本計画が出て、今までは社会を生き抜く力、学校教育に寄っていたところがあるんですが、今回の方針がとても面白くて、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会のつくり手の育成」、これがコンセプト二つあるうちの一つで、もう一つが「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」、よりよい幸せやいきがいみたいなものを求めましょうとなっていて、それに対して５つの方針が出されているんですけれども、そのうちの３つ目が、「地域や家庭で共に学びあい支えあう社会の実現に向けた教育の推進」、この中に、「社会教育を通じた持続的な地域コミュニティの基盤形成」、「公民館等の社会教育施設の機能強化、社会教育人材の養成と活躍機会の拡充」、といったことが書かれていて、そうしたことに力を入れて取り組んでいくという方針が出たということになります。そこを読んだときに、田辺は先取りというか、時流を捉えてやっているなと感じるところなんですが、ここをさらに実践的にどうしていくかというのはいろんな市町村が課題となってくるかと思います。そうした中で、なかなか新たにリーダーを掘り起こすのは難しいというのが先日の人材育成事業企画部会での議論だったと思うので、今リーダーとなっている人やキーになっている人と一緒に何かできないかということや、社会教育と言わない社会教育、コミュニティデザインのような、最近は社会教育以外の研究者が地域に対して目を向けているので、そこをうまく取り込むことができれば、より面白いところになっていくんじゃないかと思いました。この４月から私も立場が変わりますが、引き続き２年間お世話になります。

議長：今の話は何と検索すれば出てきますか。

Ⅰ委員：教育振興基本計画と検索してもらえれば出てくると思います。

副議長：この２年間の振り返りの前、前の前くらいになるのかもしれませんが、公民館の皆さんの人材育成を考えるときに、グループディスカッションをしていて、やる人はやるけどやらない人はやらないという話が出て、人材育成事業をやる意味があるのかという話にもなり、前議長の久保さんともその話をした記憶があります。当時の委員さんで高齢ながら非常に熱心に取り組まれている方がいて、そうした姿を見ながら話をしたんですが、自分が高齢になったときに高齢者向けの企画をしたくない、高校生向けに何か仕掛けてみたいと思って、実際にやろうとして呼びかけたんですが、来てくれたのは２～３人だけという苦い経験をしました。今、学校に行って事業をさせてもらうところに行きつきましたが、そういう経験を積んだからこそやれたと思っています。学校に行ってやってみると、神島高校はこれまでもずっとやってきた素地があるからだと思いますが、非常に反応が良かったし、いろいろなことに気付いてくれたと手応えを感じています。我々も仕事で動員がかかって、講演会に参加するということもあるんですが、行ってみたらいい話が聞けたということもあるので、動員や押しかけも手段の一つとして有りかと思っています。もちろんいい中身を用意しないといけないとは思いますが、そんなことを学べた高校生向けの取組でした。また、中学生向けの出張講座は、新しいチャレンジで、新たな経験ができました。あと、地域シンポジウムですが、新しいまちほど若い人がいて、古い田辺の市街地は高齢者ばかりになっている、それがまともに出ていたような気がしました。郊外に住む若いお母さん方が課題に向き合って何かしようとしているのに対して、市街地のある公民館でやったときには、参加者は高齢者ばかりで文句しか出ず、場も盛り上がらなくて、厳しさを感じました。結局、住んでいる人口構造がそうなっているので、仕方ないところなのかもしれませんが、そんな中で、若い人にどう頑張ってもらうか、場作りとか経験を含めた人材育成というのは大事だと感じています。私自身、社会教育委員会議に関わって自治について考えさせてもらいました。川北先生の話も聞かせてもらう中で、最近なのか、昔からなのかわかりませんが、行政に頼りすぎだなと感じています。すごくお金を出してもらっていて、果たしてこれでよくなるのか、結局、自分たちの生活は自分たちでするしかなくて、自分たちがやって当たり前の話なので、目の前にごみが落ちていたときに、掃除しろと役所にいう前に自分が掃除すればいいのにと思うんですが、そんなことを改めて考えさせてもらえたというのが、ここでの自分の経験というか成長だったと思います。とはいえ、恥ずかしながら、自分の町内会には行くことができておらず、妻ばかり行っていて、自分は仕事で田辺にいることが多いので、田辺の方が詳しいし、近所の人よりも田辺の人の方がよく知っているような感じです。祭では地元に関わっていて、小学校の委員もやっているんですが、町内会という枠ではまったく関わることができておらず、それなのに次年度町内会の副会長を言われてしまい、知らない人ばかりの中に入っていくんですが、ここでの経験が絶対に活きると思っていて、さっきの松場さんの話じゃないですが、少しずつ変えて行けるものがあればと思っています。市街地活性化施設en＋（エンプラス）をどんな場にするか考えるのに、かれこれ10年くらい前になりますが、田辺でリノベーションの話をしてもらった清水さんに自分の思いを聞いてもらいに訪ねて行きました。市は商工振興課所管の施設なので、創業支援や商売につながるようなそういう場にしたいという想いがあったんですが、自分はまちなかのちょっとおしゃれな公民館でいいんじゃないかと思っていて、いろんな人が来て、いろんな取組をそこでやってくれて、いろんな人がそこでつながればいいと思っていました。それが公民館と呼べるのかはわかっていないですが、買い物もしてもらったらいい、何かの発表会をやってもらってもいい、何かすることの拠点になって、ついでに味光路に飲みにいく、商店街へ買い物にいく、まちに人の姿が見える場になればいいかなと思って、日々運営しています。そうしたことも、今、話を聞きながら振り返ってみて、委員をやってきたおかげで、そんな考え方になったのかなと思っていて、時間はとられても、自分は一番得したと考えています。ありがとうございました。

議長：２年間事務局の皆さん、お世話になりましてありがとうございました。委員の皆さん方にもお世話になりまして、昨年、家庭の次世代支援でバタバタして、出るところに出られないこともあり、多大な負担を委員の皆さんにかけたかと思います。委員の皆さんがあればこそ、部会長にも、お世話になりありがとうございました。本当にここで学んだことが実践できているのかと、厳しい問いをＣさんからいただいたと思っています。前議長から議長の指名をいただいて、これでやっていけるのかなと当初思っていました。何をどうしようかと考えたときに、５ページにも書きましたが、いろんな活躍されている社会教育委員の方がいらっしゃるので、その方たちが活発にいろんなことをおっしゃっていただけたら、形になっていくんじゃないかと思って、務めさせていただきました。ここに２年間座らせていただけたのも、皆様のおかげかと思っています。私自身の中では、事務局と委員さんの協働という面が課題としてあるかと思います。もう一つ、重点アクションプランで３番目に「ＳＤＧｓ達成と持続可能な地域づくりに向けた公民館活動の実施」というのを掲げましたが、それを報告する場というか、チェックする場がないと思うんです。公民館の方で、生涯学習（人権）推進委員もさせていただいているんですが、その件に関しては報告する場があるんですが、ＳＤＧｓ達成のために何か活動したかという報告の場はないと思っています。社会教育委員会議として重点アクションプランに掲げた以上、公民館の活動を教えていただいて、活動されているのかのチェックは委員会でしないといけないと思っています。するしないの権限はないと思っていますが、実際に取組をされているかのチェックは次年度以降していきたいと考えています。ここで、たくさんのことを学ばせていただきました。社会教育委員をやっていて、地域の担い手がいないといっているんだから、頼まれたら役員を引き受けないといけないというのが自分の中にあって、そうして引き受けているうちに、あれもこれも役員をやっているという状態になりました。来年度はどうなるかわかりませんが、委員としては残りますので、どうぞ皆さんよろしくお願いします。

５．その他

　　事務局より、４月以降のスケジュールについて説明。第１回定例会については、５月15日（月）以降の開催で調整する旨を説明した。

また、３月末を以って退任される委員を事務局から紹介し、それぞれ挨拶をいただいた。

Ｃ委員：私は、個人的な理由で40数年前、まだその頃は婦人問題と言っていましたが、そういう活動を始めました。最初に指導してくださった方に「日本では平塚らいてう以来、大して物事は変わっていません。振り向いたらいつも一人です。それでも頑張りなさい。」と言われ、面食らいましたが、以来いろんな勉強をしてきました。そうして勉強して活動をしてきた関係もあって、数年前に和歌山県が初めて人権擁護施策をつくるときに呼ばれまして、毎月のように県庁に通いました。そのとき参加した会議は大変実り多くて、勉強することも多かったですし、いろんな分野からお見えになられた委員の皆さんがそれぞれ意見をお持ちで、大変勉強になりました。それから何年かたって、この社会教育委員ですが、久しぶりに実のある会議へ参加したと感じています。いろんなところに行きますが、ほとんどが座ってうーんと頷き、言わないでおこうというので終わった会議が多かったように思います。社会教育委員も最初の１年はよくわからないので足踏みしておりましたが、決して一人ではないので、自分ができることをやっていきましょう。隣の一人でもいいから一緒に進む人ができたらいいなと思いますので。いろんな活動を40数年、娘にもよくやるなといわれながらやってきましたが、この会に入っていろんな方とお知り合いにもなれましたし、また、自分自身この年齢になっても、まだ勉強することができるんだなと思うことがあったので、個人的に大変ありがたい会でした。１期が終わってお礼を申し上げたら、人がいないので次もお願いしたいという話が教育事務所からあり、引き受けましたが、翌年から地域でいろんな活動をしている人たちにずっと目を向けて接するようにしてきました。そうした中で、続けてやってもらえそうな方を見つけましたので、もう定年になってもいいだろうということで退任させていただくこととしました。先ほどＥさんもおっしゃっていましたが、私の地域からも田辺まで50分ほどかかります。遠方からくる方は負担が大きいと思いますが、負担が大きい中でも、ここへきて自分自身にすごく実りがあるということを分かってくれる方、地域の中で少しでもそれを生かすことができる方、そういう方に順次譲っていけたらと思って、私は後任の方を推薦しましたので、よろしくお願いします。お世話になりました。ありがとうございました。

Ａ委員：田辺市に63もの審議会と懇話会があるそうで、私もいくつかのところに参加させていただきましたが、社会教育委員会議が一番だと思います。一番協議を重視して、みんなで議論していると思います。ぜひともこれを続けていただきたいと思います。先日、Ｃ委員と二人で、自分たちがいなくなって静かになるね、という話をしました。ただ、静かになっても、熱意のある議論だけは続けていただきたいと思います。日本一の社会教育委員、動く社会教育委員という堀内先生の掛け声の下、出発しまして、近畿大会にも行かせてもらいました。私は田辺市が日本一ではないと思いますが、ただすごく先を走っていると思います。ぜひ、そのことを誇りに、これからもつなげていっていただければと思います。お世話になりました。ありがとうございました。

その他、４月１日付けで異動となる職員から挨拶を行った。

６．閉会　議長挨拶